

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：82512

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2021

課題番号：26380228

研究課題名（和文）冷戦時代の台湾海峡危機の再検証～マルチ・アーカイブ研究による外交史的分析～

研究課題名（英文）Cold War in East Asia and the Taiwan Strait Crises: Perspectives from Taiwan's Archives

研究代表者

松本 はる香（Matsumoto, Haruka）

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター東アジア研究グループ・研究グループ長・主任研究員

研究者番号：90450543

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、米ソ冷戦時代の国際関係の枠組みを踏まえた上で、第一次/第二次台湾海峡危機の発生によって、米国、中国（共産党政府）、台湾（国府）の三者の外交関係がいかに展開したのかに焦点を絞って、米国はもとより中国や台湾の最新の一次資料を用いた実証研究に基づく外交史的分析を行った。その際、米国政府の対中国・台湾政策を踏まえて、従来、研究蓄積の比較的乏しい分野であった中国の対米国及び対台湾政策並びに台湾の対米国及び対中国政策について再検証した。本研究の成果として、学術論文や関連する論評の発表、学会や研究会、大学、所属研究機関、企業などの外部の招聘を通じて、研究報告や講演会などを多数実施してきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

米国政府は、台湾と断交後、台湾関係法によって台湾への武器供与を通じた安全保障上のコミットメントを続けてきている。このような状況はいまなお続いており、「台湾有事」をいかに回避するかという政策的課題は、国際社会はもとより、日本にとって重要な問題である。その意味においても、台湾海峡危機は単なる歴史的事象として捉えられるべきではなく、抑止力が相互に作用して直接的軍事衝突が回避されたという事実からすれば、中国と台湾の紛争のエスカレーション回避のための歴史的教訓として、米中・米台・中台関係に関わる現代的インプリケーションをも有している。本研究は、そのような意味においても学術的かつ社会的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：This research aims to investigate trilateral relations among the United States, China (People's Republic of China) and Taiwan (Republic of China) during the two Taiwan Strait Crises in the 1950s. It utilizes not only U.S. sources but also the Chinese and Taiwanese archival documents that have been declassified recently in China and Taiwan. By doing so, this research re-examines the development of Sino-U.S. relations and the transformation of regional dynamics in East Asia during the period.

研究分野：国際関係史 外交史 冷戦史

キーワード：台湾海峡危機 中国 台湾 米中関係

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の背景について振り返ると、本研究は、冷戦時代の台湾海峡危機（第一次危機 [1954-55]・第二次危機[1958]）をめぐる米国、中国（共産党政府）、台湾（国府）の3者の関係の展開に焦点を当てることを出発点として開始した。

冷戦時代の台湾海峡危機は、毛沢東率いる中国共産党政府の人民解放軍が、台湾の蔣介石の国府と対峙する形で台湾近海に砲撃を行ったことが契機となって発生した。当時、中華民国を正式に承認をして経済・軍事援助を供与していた米国政府は、台湾の国府との間の協議を経て、1954年末には安全保障同盟である米華相互防衛条約を締結した。また、台湾海峡危機の戦間期には、米国政府と中国共産党政府の間の米中大使級会談が開始され、米中間の外交チャンネルが新たに設置された。台湾海峡危機は、中国と台湾の間に相互抑止が作用したため、直接的軍事衝突の発生が回避された重要な歴史的事例として位置づけられる。

なお、台湾海峡危機に関する従来からの先行研究は、米国政府の外交公文書に基づいたアメリカ外交史の文脈の視点に立った研究が多く、当時の米国政府における主要な政策決定者が、中国や台湾にいかに対応したかを分析することに主たる力点が置かれる傾向が強かった。このため、本研究では、米国のみならず、中国や台湾の視点から見た台湾海峡危機に焦点を当て、中国や台湾における最新の一次資料に基づいて再検証を行うことに重点を置いた。

2. 研究の目的

本研究では、米ソ冷戦時代の国際関係の枠組みを踏まえた上で、第一次/第二次台湾海峡危機の発生によって、米国、中国（共産党政府）、台湾（国府）の三者の外交関係がいかに関わったのかに焦点を絞って、米国はもとより中国や台湾の最新の一次資料を用いた実証研究に基づく外交史的分析を行った。その際、米国政府の対中国・台湾政策を踏まえて、従来、研究蓄積の比較的乏しい分野であった中国の対米国及び対台湾政策並びに台湾の対米国及び対中国政策について再検証した。冷戦時代の台湾海峡危機では相互の抑止力が作用して直接的軍事衝突が回避された。このことから、本研究の視角は、中国と台湾の紛争回避のための歴史的教訓として現代の兩岸関係の在り方はもとより、米中・米台関係に関わる現代的インプリケーションをも有しているという意味においても重要であると言える。

研究の視角としては、アジアにおける冷戦のなかで、なぜ台湾海峡危機だけが「熱戦化」しなかったのかという大きな問題意識を踏まえて、台湾海峡危機をめぐるアメリカ、中国、台湾の三者の動向について多角的に分析を行うこととした。より具体的には以下について明らかにすることに重点を置いた。すなわち、なぜ中国は第一次・第二次台湾海峡危機へ踏み切ったのか、その理由について、中国における国内的要因及び外交的要因の両側面から分析を行った。また、それに対して、米国政府はいかなる政策的な意図を以って中国・台湾政策を策定したのか、という従来の視角に加えて、中国と台湾が米国政府の対応をいかに受けとめて、どのような対応を取ったのか、国府は、米国と同盟関係にあったものの、「大陸反攻」を反対されて、限定的な外交の選択肢しか持ち得なかったなかで何を追求しようとしたのか。さらに、米国、中国、台湾の3者が、当時の冷戦下の米ソ関係の対立構造や東アジアの国際関係をいかに捉え、そのなか

で台湾海峡危機をいかに位置づけていたのか、台湾海峡危機がその後の日米安保改定にいかなる影響を及ぼしたのかなどについても検証を試みた。

3. 研究の方法

本研究は冷戦時代の国際関係史を分析するものであり、実証的な外交史研究のアプローチを取った。より具体的には、米国のアーカイブ(米国国立公文書館、ナショナル・セキュリティ・アーカイブ、スタンフォード大学フーバー研究所)における公開資料に加えて、近年、中国(中国外交部档案館)及び台湾(国史館、中央研究院近代史研究所档案館、国民党党史館、国防部、国立台湾政治大学孫中山記念図書館)などで、より幅広い多角的視点からのマルチ・アーカイブ調査を行ってきた。これらのアーカイブにおける資料収集を踏まえて、中国、台湾、米国で新たに収集した一次資料と、既に収集済みの米国の従来公開資料との比較分析を行うことにより、研究を進めてきた。

4. 研究成果

本研究では、中国や台湾において新たに公開された外交関係の一次資料を駆使して、主に中国や台湾の側の視点から台湾海峡危機を再検証した。従来、アジア関係の外交史を研究する際にはFRUSなどの米国側の資料に多くを依拠してきた。その理由として、外交文書の公開の面においては米国が圧倒的に先駆的な役割を従来は果たしてきたことが挙げられる。しかし、近年、アジアにおいても外交文書の公開が目覚しく、中国や台湾もその例外ではない。例えば、2000年代半ば頃以降、中国・北京においても冷戦時代の中国外交部の外交文書の一部の公開が開始された。また、台湾においてはさらに目覚しく、戒嚴令解除以降、民主化の成熟とともに情報公開の傾向は強まっている。近年では、国史館をはじめとして、中央研究院近代史研究所档案館、国民党党史館などにおいて数多くの外交関係資料の公開が飛躍的に進んできた。また、米国スタンフォード大学に付託された第一級の歴史資料として注目を集める「蔣介石日記」は、同大学付属フーバー研究所で内容の解明が進められるとともに公開を開始した。このような状況下で、台湾海峡危機をめぐる米中関係の展開及び国際秩序の変容について、中国・台湾側の視点に基づいて分析を行うことは、時機を得ており有意義であったと言える。

主な研究成果の詳細については、研究発表の各項目を参照されたい。総じて、本研究を通じて、その研究成果として、日本語をはじめ、英語や中国語を含む、学術論文や関連する論評の発表などを積極的に行ってきた。それらの研究成果の大部分は、オープンアクセスが可能であり、インターネット上で公開されている。また、とりわけ2019年以降、米中関係の悪化にともない、「米中新冷戦」と呼ばれるような状況が出現するなかで、冷戦時代の米中関係の対立の歴史を振り返りつつ、今日の米中関係について分析することに対する社会的要請や需要が高まった。そのような状況のなかで、学会や研究会、大学、所属研究機関や、企業などの外部の招聘を通じて、研究報告や講演会などを多数実施してきた。それらを通じて、研究成果の公開を積極的に行ってきた。

研究期間全体を振り返ると、本研究は、2014年度から2021年度(ただし、うち約2年間は産・育休を取得)の通算約6年間にわたって実施された。その間、アメリカ、中国、台湾における主要なアーカイブにおいて現地調査を行ってきた。ただし、中国では、2012年秋の習近平政権発足以降、国内における言論統制や外国人に対する情報収集の規制が強まったため、資料調査に徐々に制限が加えられることになった。その後、2019年秋には中国近代史専門家の日本人研究

者が理由も明らかにされないまま、中国当局によって数か月間拘束されるという事件が起こった。その影響によって、日本人研究者の中国での現地調査そのものが慎重に検討されるようになった。その後、新型コロナウイルスの世界的蔓延も相俟って、中国大陸への渡航はさらに難しくなった。その影響は、中国にとどまらず、2020年3月以降は、アメリカや台湾への渡航そのものを難しくした。

以上のように、新型コロナウイルスの影響などで、現地調査の実施に多少の変更が出たものの、その間、これまで収集した膨大な資料の整理や読み込み作業を優先的に行ったため、研究そのものが大きく影響を受けることはなかった。

最後に、本研究成果の意義について触れたい。米国政府は、台湾と断交後、台湾関係法によって台湾への武器供与を通じた安全保障上のコミットメントを続けてきている。このような状況はいまなお続いており、「台湾有事」をいかに回避するかという政策的課題は、国際社会はもとより、日本にとって重要な問題である。その意味においても、台湾海峡危機は単なる歴史的事例として捉えられるべきではなく、抑止力が相互に作用して直接的軍事衝突が回避されたという事実からすれば、中国と台湾の紛争のエスカレーション回避のための歴史的教訓として、米中・米台・中台関係に関わる現代的インプリケーションをも有している。本研究は、そのような意味においても学術的かつ社会的意義を有していると言えよう。

*

以上のような研究活動及び研究成果を踏まえて、今後はこれらの研究成果を学術書として纏めることを目標として、継続的なテーマである新規科研事業（基盤 C:東アジアの冷戦と台湾の視座～台湾海峡危機をめぐる外交史研究～）のもとで、研究を継続していく予定である。

最後に、本事業を支援して下さった日本学術振興会をはじめとして、研究活動をバックアップして下さったアジア経済研究所の事務関係者の皆様、そして、本研究に数多くの有益な助言をくださった内外研究者及び専門家の皆様に感謝を申し上げたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第636号
2. 論文標題 ポスト・コロナ時代の米中覇権争いを見据えた中国の外交攻勢	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松本はる香	4. 巻 7月
2. 論文標題 蔡英文再選と台湾をめぐる国際関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済研究所『IDEスクエア』	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第639号
2. 論文標題 新型コロナウイルスの起源をめぐる中国の国内事情	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第642号
2. 論文標題 台湾をめぐる「戦略的曖昧さ」の重要性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 1月19日
2. 論文標題 台湾 高まる偶発的衝突リスク	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 毎日新聞出版『週刊エコノミスト』	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第645号
2. 論文標題 「インド太平洋の戦略的枠組み」政策文書の機密解除	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第155号
2. 論文標題 第二次台湾海峡危機をめぐる米台関係の展開 蒋介石の意図と対応の分析を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知大学『国際問題研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 159-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第48巻3号
2. 論文標題 習近平政権期における米中関係の展開 「新型大国関係」の模索から「米中新冷戦」へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『問題と研究』	6. 最初と最後の頁 81-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.30391/ISJ.201909_48(3).0003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第626号
2. 論文標題 「米中新冷戦」の行方 米中関係をめぐる外交・安全保障問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 32 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第79巻第4号
2. 論文標題 米中関係と中国の海外における「統一戦線工作」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『運輸と経済』	6. 最初と最後の頁 139-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 第2章
2. 論文標題 対立が先鋭化する米中関係 「米中新冷戦」の行方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済研究所最終報告書	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 序章
2. 論文標題 習近平政権をめぐる国際関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済研究所最終報告書	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 9月
2. 論文標題 先鋭化する米中対立 「米中新冷戦」の争点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア経済研究所最終報告書	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 10月8日
2. 論文標題 迫る台湾総統選 潮目を変えた香港情勢の悪化 対中強硬の蔡英文氏に追い風	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『週刊エコノミスト』	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 1月7日
2. 論文標題 台湾総統選 蔡英文氏の再選を香港が後押し	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『週刊エコノミスト』	6. 最初と最後の頁 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruka Matsumoto	4. 巻 No. 729
2. 論文標題 Chiang Kai-shek's Vision for Returning to China in the 1950s	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDE Discussion Papers	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 2018_2_40_004
2. 論文標題 習近平政権期の米中関係の展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア経済研究所調査研究報告書	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 No.1 (創刊号)
2. 論文標題 対立基調の米中関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDEニュース	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 Vol.51
2. 論文標題 中国の対アフリカ外交攻勢 中国アフリカ協力フォーラムをめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 4月
2. 論文標題 習近平政権の311項目の台湾優遇措置 より洗練されたたかな中国の台湾戦略	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア経済研究所 『IDEスクエア』	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 11月
2. 論文標題 安倍首相訪中と日中首脳会談の実現	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア経済研究所 『IDEスクエア』	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 58(3)
2. 論文標題 第一次台湾海峡危機をめぐる大陸沿岸諸島の防衛問題の変遷 「蒋介石日記」及び台湾側一次史料による分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 22-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 6月
2. 論文標題 フォーカス・オン・チャイナ連載第1回「トランプ政権と米中関係 不確実性が増すアジアの安全保障」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア経済研究所 『IDEスクエア』	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 1月
2. 論文標題 フォーカス・オン・チャイナ連載第2回「習近平2期目の中国外交の行方」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア経済研究所 『IDEスクエア』	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 3月
2. 論文標題 フォーカス・オン・チャイナ連載第3回「蔡英文政権と膠着化する中台関係」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア経済研究所『IDEスクエア』	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 11月
2. 論文標題 世界を見る眼「台湾の外交史料公開の最前線 台北の主要なアーカイブ」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア経済研究所『IDEスクエア』	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 2月
2. 論文標題 馬英九政権期における中台関係の緊密化と台湾の安全保障 平和協議と台湾海峡の「現状維持」をめぐる問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア経済研究所最終報告書	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 -
2. 論文標題 馬英九政権期における中台関係の進展をめぐる諸問題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア経済研究所調査研究報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 592
2. 論文標題 蔡英文政権と東アジアの国際関係	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruka Matsumoto	4. 巻 No.481
2. 論文標題 “ Taiwan Strait Crises and Chiang Kai-shek ' s Strategic Thinking: A Perspective from the Taiwan ' s Archive ”	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 IDE Discussion Papers	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 227号
2. 論文標題 「張光珮女史の軌跡 1950年代の日中青年交流のさきがけ」	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 『アジ研ワールド・トレンド』 (9月号)	6. 最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 No.572
2. 論文標題 「習近平政権の外交政策と日中関係の行方」	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 霞山会『東亜』 (2月号)	6. 最初と最後の頁 92-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本はる香	4. 巻 56巻第3号
2. 論文標題 書評「(福田円著) 中国外交と台湾 『一つの中国』原則の起源」	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 『アジア経済』	6. 最初と最後の頁 (未定)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩谷将	4. 巻 No.223
2. 論文標題 「スタンフォード大学フーバー研究所研究ガイド」	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 『アジア研ワールド・トレンド』(5月号)	6. 最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計12件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 蔡英文再選と台湾をめぐる国際関係
3. 学会等名 アジア経済研究所専門講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 習近平政権期の外交政策の展開 米中関係と台湾問題を中心に
3. 学会等名 国会図書館
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 デジタル化時代の日中協力
3. 学会等名 日本国際フォーラム主催「日中対話 ポスト・コロナ時代の日中協力のあり方」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 対立が先鋭化する米中関係
3. 学会等名 アジア経済研究所主催講演会「米中新冷戦と中国外交」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 習近平政権期の中国外交と米中関係
3. 学会等名 日本貿易会主催ゼミナール講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 米中新冷戦と中国外交
3. 学会等名 アジア経済研究所主催中国塾
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 習近平時代の中国外交と米中関係
3. 学会等名 日本台湾交流協会主催 第3回日本台湾経済関係調査研究会講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 中台関係の緊密化と中国をめぐる国際関係
3. 学会等名 アジア経済研究所夏期講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 冷戦と台湾海峡危機
3. 学会等名 中国社会科学院近代史研究所セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 習近平政権の外交政策
3. 学会等名 政策研究フォーラム・改革政策研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 蔡英文政権と東アジアの国際関係
3. 学会等名 霞山会・遠景基金会共催日台シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本はる香
2. 発表標題 中国をめぐる国際関係 習近平政権の対外政策
3. 学会等名 アジア経済研究所夏期講座
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 松本 はる香 編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 262
3. 書名 米中新冷戦 と中国外交 北東アジアのパワーポリティクス	

1. 著者名 川上桃子、松本はる香	4. 発行年 2019年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 228
3. 書名 中台関係のダイナミズムと台湾	

1. 著者名 松本はる香編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 アジア経済研究所調査研究報告書	5. 総ページ数 98
3. 書名 中国をめぐる国際関係 習近平政権の対外政策	

1. 著者名 松本はる香	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 632
3. 書名 『アジア動向年報2017』「2016年の中国 習近平を党中央の『核心』として集権化が進む」	

1. 著者名 松本はる香	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 632
3. 書名 『アジア動向年報』「2016年の中国 習近平を党中央の『核心』として集権化が進む」	

1. 著者名 林果顕	4. 発行年 2016年
2. 出版社 稲郷出版社	5. 総ページ数 230
3. 書名 1950年代台湾国際観の塑造 以党政宣伝媒体外来中文刊物為中心	

1. 著者名 松本はる香（馬場毅・謝政諭編）	4. 発行年 2014年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 275
3. 書名 『民主と兩岸関係についての東アジアの視点』 「兩岸関係の進展の光と影 平和協定をめぐる中国と台湾の攻防」	

1. 著者名 松本はる香（共著・山田七絵）	4. 発行年 2015年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 670
3. 書名 『アジア動向年報』 「2014年の中国 汚職の取り締まりによる権力基盤の強化」	

1. 著者名 松本はる香（共著・木村公一朗）	4. 発行年 2014年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 670
3. 書名 『アジア動向年報』 「2013年の中国 習近平政権の本格始動」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>松本はる香（研究者紹介） https://www.ide.go.jp/Japanese/Researchers/matsumoto_haruka.html 松本はる香（科研費事業研究者データベース） https://researchmap.jp/hrkmtmt/ 松本はる香（研究者紹介） https://www.ide.go.jp/Japanese/Researchers/matsumoto_haruka.html 先鋭化する米中対立 「米中新冷戦」の争点 https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Eyes/2019/ISQ201920_031.html 研究者の紹介：松本はる香 https://www.ide.go.jp/Japanese/Researchers/matsumoto_haruka.html 松本はる香「安倍首相訪中と日中首脳会談の実現」 https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Column/ISQ000003/ISQ000003_005.html 松本はる香「習近平政権の31項目の台湾優遇措置 より洗練されたしたたかな中国の台湾戦略」 https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Column/ISQ000003/ISQ000003_004.html 松本はる香「対立基調の米中関係」 http://hdl.handle.net/2344/00050479 研究者の紹介：松本はる香 http://www.ide.go.jp/Japanese/Researchers/matsumoto_haruka.html 松本はる香「トランプ政権と米中関係 不確実性が増すアジアの安全保障」 http://hdl.handle.net/2344/00049737 松本はる香「習近平2期目の中国外交の行方」 http://hdl.handle.net/2344/00050145 松本はる香「蔡英文政権と悪化化する中台関係」</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岩谷 將 (Iwatani Nobu)		防衛研究所主任研究官(当時)

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関